

令和6年度 柏四小 学校評価(自己評価)

学校教育目標 「グローバル人材の育成」(グローバル+ローカル)

重点目標 ・共生的な態度の育成 ・主体的な態度の育成

めざす児童像 「人を大切にする子」 「自分で考えて行動する子」

※グローバル人材の基盤となる力を多様性を理解した上での行動力とし、「共生的・主体的な態度の育成」を重点に取り組んだ。

目標達成のための手立て		自己評価
共生的な態度の育成 人を大切にする子	個のよさ・可能性を認め協働する集団づくりを通して、自己肯定感・自他の人権を尊重する心を育む。(自分を、まわりの人を大切にする。)	(A) ・保護者公開だけでなく、保護者に児童の学校行事の支援をお願いした。異学年交流の活動を通して、個のよさに気付くと共に、自己肯定感も向上している。 ・交流を通して多様性の理解が促進できるよう、地域学生ボランティアの受入、異学年交流、地域のお年寄りとの交流(書き初め)を実施した。 ・アンケート結果から効果が認められるが、今後も個に応じた支援を進めていく。
	挨拶や礼儀、きまりの意味を考えさせる指導を通して、主体的な規範意識や社会性を育む。(まわりの人を大切にする。)	(B) ・規範意識を高められるよう、全校で月目標の取組、児童による挨拶運動、継続的な指導をしてきた。全校で行う学校行事を通して、高学年の姿を低学年に見せることは、大きな憧れと刺激につながった。 ・【みそあじ運動】を学校全体で取り組んだが、み:右側通行が課題である。今年度は、主体的な態度を向上させたいと考えたが、さらに継続したい。
	「分かった・できた」を実感させる学習活動を通して、知識技能、学ぶ意欲の定着を図る。(自分を大切にする。)	(A) ・主体的に取り組む児童の育成を目指した。各学年で教科を決め、授業改善に取り組んだ。 ・地域人材を活用し、2, 3, 6年対象に、放課後子供教室を実施した。 ・3～6年生に向けての専科教員、教科担任制による取組も3・5年で実施し、一定の効果が見られた。次年度も実態に即した支援ができるよう、教科担任制の導入を検討したい。
	「地域を知る・地域にかかわる」学習活動を通して、地域愛を育む。(地域の人を大切にする。)	(B) ・「地域の職場学習」「地域の環境学習」の際には、地域の人材を講師としてお招きしたり、直接に現地に行き学習したりと、地域の協力を得ながら体験学習を実施した。 ・児童アンケート結果では「地域への貢献に関すること」に84.7%が肯定的評価であった。次年度はさらに、地域のお祭りや行事に参加する児童が増えるよう、ふる協や青少協等の集いへの参加を促したい。
主体的な態度の育成(自分で考えて行動する子)	・学習に対して、主体的に取り組む児童を育む。	(A) ・校内研究のテーマを「学習に対して、主体的に取り組む児童の育成」として、授業改善に取り組んだ。「児童は、家庭学習(宿題)に自分から取り組んでいる」が低い結果であった。主体性が低い児童は学力も低い傾向にあるので、次年度の課題としたい。 ・児童が自らPDCAサイクルを回せるようになるための手立てを皆で考え、一定の効果が上がった。
	子供に任せる場、挑戦させる場の設定を通して、自分で考え行動する力を育む。	(B) ・委員会活動や係活動等の自治的な活動や多様な集団活動の場では、自分たちで行動できるよう、取り組んできた。児童アンケートでは、「多様な学習を楽しめた」と96%が肯定的に回答している。 ・教員自身が教員主導から児童主体へと意識改革し、自ら課題を見つけて改善にむけて行動する力を育成し、次年度も継続したい。
	体育科の授業を通して、運動量を確保すると共に、「できた」を実感させ、日常的な体力づくりへの意欲を育む。	(B) ・体育関係(水泳指導、運動会、持久走大会)の学習を通して、体力の向上に努めた。アンケート実施時期が持久走練習と重なり、昨年度と比べ、低い結果であった。 ・学校行事の様子を見ると、いずれも意欲的に取り組んでいることから、実施方法を工夫することで、さらに満足度は高まるものと考えます。
	基本的生活習慣の確立、災害・感染の理解を深める指導、訓練を通して、「自分の身は自分で守る」力を育む。	(B) ・定期的に避難訓練(告知在り、告知なし、授業中、授業時間外等)を実施し、一人一人が自分で考え、安全に身を守る行動ができるよう、訓練の積み重ねを大事にした。 ・各学年の発達段階に応じて、柏警察と連携した「交通安全教室」、民間水泳スクールによる「着衣泳」を実施した。 ・保護者、児童共にアンケート結果は高い評価である。危険回避の意識を高めていきたい。
協働	職員同士、保護者・地域・関係機関とつながり、地域に開かれた安心・安全な学校をつくる。	(A) ・学校の様子を知る機会として、学校だよりやHP、校長室よりで教育方針や活動の情報発信に努め、95.6%の高い結果を得られた。 ・コミュニティ・スクールも5年目を迎え、学校運営協議会を中心に、保護者からも存在が理解されるようになってる。 ・次年度は、教育課程を通じて、柏五中・高田小と学習活動をよりつながっていききたい。

《評価基準》

A 適切な取組がなされていて、十分達成できている。

B 適切な取組がなされていて、おおむね達成できている。

C 取組はなされているが、成果が十分ではない。

D 取組が不十分で、成果があがっていない。